

# Topics トピックス

## 堀場雅夫最高顧問が “ピッツコン・ヘリテージ賞”を受賞, 殿堂入り



ピッツコン 2006での“ピッツコン・ヘリテージ賞”授賞式の様子 (Photo by John Staley)

### ケミカル・ヘリテージ財団とは

ケミカル・ヘリテージ財団 (Chemical Heritage Foundation : CHF) は、化学及び分子科学の過去を大切に、現在に知らせ、未来へと繋げていく行動を通じて、化学及び分子科学の共同体と広く一般に貢献することを使命としている。その目的のためCHFは、化学及び分子科学、技術や工業の歴史を記録した歴史的史料と文化遺産を世界的に収集保存し、更にCHFにとって戦略的価値があると判断したものについて、収集調査を奨励している。また化学及び分子科学、技術並びに工業が社会を作り上げていく過程でそれらが果たした歴史的役割を更に理解してもらえるよう、さまざまな活動を繰り広げている。

1982年に、科学者や実業家の“化学、分子科学及び産業の成果を収集し、世の中に知らしめることを目的とするセンターの設立が必要な時期となった”との思いに応じて、化学史センター (Center for the History of Chemistry : CHOC) が、ペンシルバニア大学とアメリカ化学会 (American Chemical Society : ACS) のパイロットプロジェクトとして設立された。1984年には、アメリカ化学技術者協会 (American Institute of Chemical Engineers : AIChE) が3番目のスポンサーになった。

1987年にCHOCは、ACSとAIChEの共同でアメリカ化学史財団(National Foundation for the History of Chemistry)という非営利組織として再編された。財団はペンシルバニア大学で新しい建物にスペースを賃借りし、ベックマン化学史センター(Beckman Center for the History of Chemistry: 1987設立)とオスマー化学史図書館(Othmer Library of Chemical History: 1988設立)へと、その活動を再構築していった。

1992年に、現在の名前であるCHFを採用し、それが果たす科学と産業とその広がっていく活動範囲の学際的な性質を反映しようとした。1995年に、CHFはその永久の家、フィラデルフィアのインディペンデンス国立歴史公園の一角を占めるファースト・ナショナル銀行建物を購入、1年後にその新しい場所に引っ越した。現在では、9000 m<sup>2</sup>の施設内に会議室や500年前からの遺産を保存する完全空調コントロール施設、図書閲覧室、展示ギャラリー等があり、訪れる人々に“化学及び分子科学”の過去・現在・未来に関するメッセージを送り続けている。

今日、CHFはACS, AIChE, アメリカ化学工業協会(American Chemistry Council), アメリカ質量分析学会(American Society for Mass Spectrometry), それにピッツコン(Pittsburgh Conference on Analytical Chemistry and Applied Spectroscopy)など30を超す団体がサポートしている。

CHFの主な活動内容は主として下記のようなものである。

- オスマー図書館の運営
- ベックマンセンターの運営
- 機関誌“Chemical Heritage”の発行
- 書籍の刊行
- オーラル・ヒストリー(Oral History: 口述による歴史)の制作・保存
- ヘリテージ賞の提供(ピッツコン, その他の展示会において)

<<http://www.chemheritage.org/about/about.html>より翻訳して転載>

## 堀場雅夫のオーラル・ヒストリー

米国フロリダ州オーランドで開催されたピッツコン 2003の会期中、CHFから堀場雅夫のオーラル・ヒストリー制作の申し入れがあった。これが堀場雅夫とCHFとの最初の接点である。「CHFではその活動の一環として、化学及び分子科学に貢献のあった人物のオーラル・ヒストリーを作成しているが、今後は広く海外からも情報を集めたい。その一人が日本のpHメータの堀場雅夫である(図1)。pHメータの親Dr. Beckmanと日本のpHメータの親である堀場雅夫が非常によく似ているため、ぜひともオーラル・ヒストリーを作成し、記録として残したい。」という説明であった。展示会終了後、堀場社長、堀場会長(当時)



図1 pHメータと堀場雅夫

の承認により、この“Dr. Horiba's Oral History”はプロジェクトとしてスタートした。

CHFのオーラル・ヒストリーとは、化学及び分子科学に貢献のあった人物が、個人の人生（家族、子供時代、教育、人生の決断に影響を与えた事柄、仕事など）に関しインタビューに答える形で語る内容を、CHFが最大効果が得られるように編集・制作する個人の自伝的回顧録といったものである。CHFとHORIBAの間での調整に時間が必要であったが、2004年秋、CHFの歴史家Mr. David Blockの来日により2日間にわたるオーラル・ヒストリー制作のためのインタビューが実施された。

インタビューは11月19日と11月20日の午前中、2名の通訳を介して堀場雅夫の家族に関する話から始まった。CHF、Mr. D. Blockの英語による質問を通訳が日本語に訳し、それに堀場雅夫が日本語で答える。それを通訳が英語に訳し、Mr. D. Blockに伝えるという方法でインタビューは進行し、そのすべてが録音された。

インタビュー内容は大きく分けて以下の6項目に分かれ、堀場雅夫の人生哲学も交えた密度の濃い内容であり、堀場雅夫自身も「これだけの内容を一度に話すのは初めて。」と回顧している。

1. 家族の歴史と若年時の体験
2. 京都帝国大学と第二次世界大戦
3. 堀場無線研究所
4. 株式会社堀場製作所
5. 株式会社堀場製作所の社是
6. 結語：現在の関心

CHFで、このインタビューの記録を英・和文両言語で書き起こし、編集を行い、それをHORIBAにてチェックし、写真を提供。そして2006年3月、最終148ページの“Dr. Horiba's Oral History(図2)”が完成した。

このオーラル・ヒストリーの一般への開示はCHFを通じて以下の方法にて行われる。

1. オスマー化学史図書館に収蔵
2. 要旨をCHFのWebに掲載 (<http://www.chemheritage.org/exhibits/ex-nav2.html>)
3. 機関誌“Chemical Heritage”(30,000部発行)に掲載
4. インタビューの録音テープ、最終原稿、関連資料はCHFのライブラリーで閲覧用に保管(Webによると、2006年3月現在、Dr. Beckmanを始めとして254件のオーラル・ヒストリーが制作されており、うち、日本人としてはコロンビア大学の中西香爾教授のものがある)

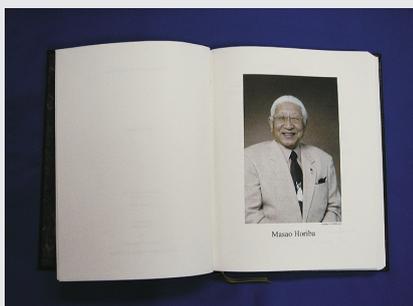


図2 Dr. Horiba's Oral History

## 2006年ピッツコン・ヘリテージ賞受賞と殿堂入り

“ピッツコン・ヘリテージ賞 (PITTCON Heritage Award)” は、ピッツコンとCHFによって、経営人として功績が大きいことや画期的で影響力を与える分析技術を確立したなど、世界経済における分析化学の役割を高めた功績顕著と認められた個人に与えられる賞である。堀場雅夫への授賞理由は、“常に意思堅固にして革新的でありまた起業家としての情熱を持ち、世界各国の研究や業績を支援する製品をもって地球規模の計測機器ビジネスを創始し、併せてベンチャーキャピタルの発展と経営哲学に大きな役割を果たした” というものであった。

授賞式は、理化学分析の世界で一番大きく、HORIBAグループも30年以上参加しているピッツコン 2006<sup>\*1</sup>(**図3**) が開催されている米国オーランド市(フロリダ州)の会場で、会期初日の3月12日16時30分(現地時間)から行われた。

\*1: 年に1度, Pittsburg Conference on Analytical Chemistry and Applied Spectroscopy によって開かれる展示会及び国際会議。

ピッツコンのKevin McKaveney代表の挨拶の後、CHFのArnold Thackray代表から「人類のQuality of Lifeに対するたゆまざる努力は500年前のガリレオ・ガリレイに始まり、現代の科学者に至っている。そしてその改革の連鎖の中にDr. Horibaの存在があり、ピッツコン殿堂 (PITTCON Hall of Fame) でその業績を称えるに相応しい人物である。」との賛辞があり、両代表から堀場雅夫へピッツコン・ヘリテージ賞の盾が手渡された (**図4**)。

堀場雅夫からは、敗戦を機に研究所を設立しその後紆余曲折を経て国産初のガラス電極式pHメータを開発し計測メーカを立ち上げたことを説明した後、「奇しくも、私自身、科学進歩になくはならないのに、その地位が低い計測分野の研究者に光をあてて奨励し支援する“堀場雅夫賞”を2年前に創設した。今回の受賞と殿堂入りが意図される効果をもたらすためにも、この“堀場雅夫賞”を続けていく。」との謝辞を述べた (**図5**)。

なお、受賞と同時に同分野の発展に大きく貢献した功績を後世にわたって称える殿堂入りの27人目としても認定された (**図6**)。このピッツコン殿堂は、草創期のpHメータの代名詞であったベックマンの創始者Arnold Beckmanを始め、ヒューレットパッカード社創業のDavid Packard及びWilliam Hewlettやパーキンエルマー社を創設したCharles Elmer及びRichard S. Perkinなど、分析業界で最も素晴らしい世界一流の製品を世に送り出してきた企業の経営者ばかりである。

<執筆：室賀 裕一, 海外本部, コーポレートオフィサー>



図3 ピッツコン 2006でのHORIBAブース

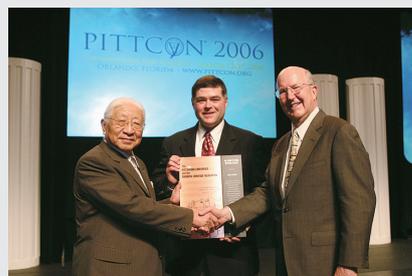


図4 ピッツコン・ヘリテージ賞を授賞する堀場雅夫(中央: Kevin McKaveney代表, 右: Arnold Thackray代表 (Photo by John Staley))



図5 謝辞を述べる堀場雅夫 (Photo by John Staley)

Robert W. Allington  
Walter S. Baird  
John Townsend Baker  
Arnold O. Beckman  
C. Eugen Bennett  
Henry "Howard" Cary  
Wallace Coulter  
Keene P. Dimick  
Charles Elmer  
Robert E. Finnigan  
Chester G. Fisher  
Kathryn "Kitty" Hach-Darrow  
Maurice Hasler  
William Hewlett  
**Masao Horiba**  
J. O. Jarrell  
Aaron Martin  
Frank Martinez, Jr.  
Erhard Mettler  
David Nelson  
David Packard  
Richard S. Perkin  
Arthur H. Thomas  
Russell Varian  
Sigurd Varian  
James L. Waters  
Paul A. Wilks

図6 ピッツコン殿堂の人達  
(<http://www.chemheritage.org/exhibits/pittcon/index.html>より)